

鮎の塩焼き イベント引っ張りだこ



▲松野町 道の駅虹の森まつの
伊予・土佐の国うまいもん合戦 2024 秋

秋は、イベントが盛りだくさんの季節。鮎の塩焼きの外販も増える。今年は、旭川の北のマルシェを皮切りに、4つのイベントに参加した。

①道の駅虹の森まつのにて、伊予・土佐の国うまいもん合戦。②道の駅三間にて、秋のグルメフェスタ。③高知市にて、ふるさと祭り。④道の駅日吉夢産地にて、改修工事落成式。どのイベントでも地域の皆さんに鮎を食べてもらえる絶好の機会。特にふるさと祭りは、焼き上がりが間に合わず予約待ちが出るほどの好評となった。少しでも多くの人に四万十の鮎を美味しく食べてもらうために、イベント出店を大事にしていきたい。



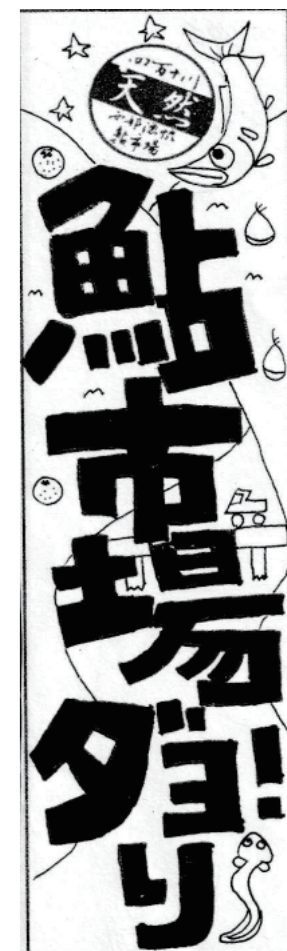
12月1日落ち鮎解禁 資源量好調!

2019年も鮎が少なく大型化したことがあり、次の年に豊漁だったこともある。鮎の資源量変化は解明されておらず、毎年やきもきさせられるが、今年の鮎はどうか?と川を見ながら会議するのにも興ではないか。



落ち鮎が12月1日に解禁した。毎年、夜明け前の赤鉄橋下は漁師であふれる。今年は夏鮎が少なく、異例の自粛期間を設ける程。期待薄のため、いつもより人が少ない幕開けとなった。平均10尾ほどの釣果。朝一で帰る人が多く、2日にはほとんど人がいない状況。

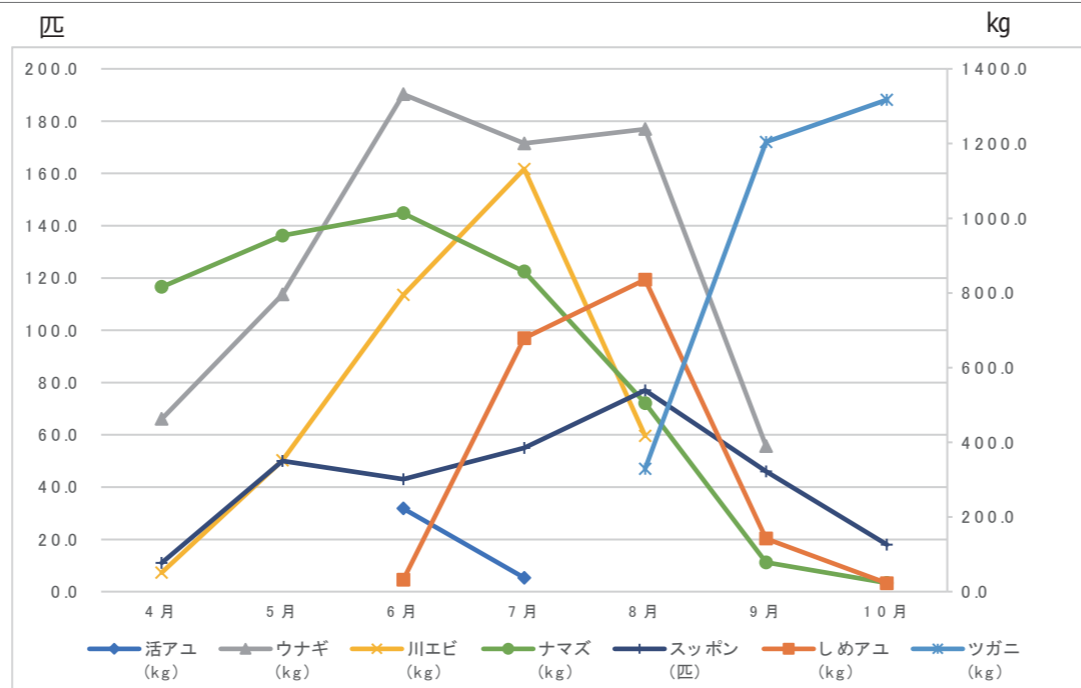
しかし、中央漁協の流下仔魚調査、四万十川漁業振興協議会の汽水域調査によると、鮎資源量は好調とのこと!鮎が大型化し、産卵期が早まり11月中旬にはピークを迎え、落ち鮎解禁時に抱卵した鮎はほとんどいなかった。産卵場の傾向もいつもと違い、より瀬がきつく、大きな玉石への産卵が多かった。中央漁協の工リアは貴重な産卵場があり、資源量確保への意識が強い。毎年、産卵環境の改善に勤め、11月から毎週仔魚調査を行っている。



秋冬号

2024 年入荷量まとめ

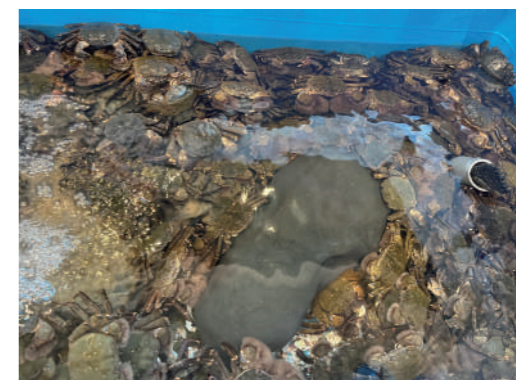
	活アユ (kg)	しめアユ (kg)	ウナギ (kg)	川エビ (kg)	ツガニ (kg)	ナマズ (kg)	スッポン (匹)
4月			66.1	7.3		116.6	11
5月			113.7	50.2		136.2	50
6月	31.8	32.0	190.3	113.5		144.8	43
7月	5.3	678.7	171.5	161.7		122.5	55
8月		835.4	177.0	59.6	328.9	72.1	77
9月		142.2	55.7		1204.4	11.2	46
10月		22.6			1317.1	3.3	18
計	37.1	1710.9	774.3	392.3	2850.4	606.7	300



ツガニ大漁

8月から始まったツガニ漁。今期は例年よりも多い入荷量となった。

9、10月は入荷が集中し、水槽内にツガニが入りきらなほど。毎年、鮎の入荷とかわるのでツガニの冷凍が間に合っていないかった。しかし今年には鮎の入荷がなく、ツガニの冷凍を積極的にいりストックを確保することができた。入荷量は増えたが、冷凍品やガネスープを作ることによって歩留まりを良くすることができた。冷凍ツガニはふるさと納税の返礼品になっているため、年末にかけて需要が高い状態だ。



2025年
1月吉日

四万十川西部
漁業協同組合

高知県四万十市
西土佐江川崎 2410-3
☎0880-52-1148



◎2024 年概況

鮎以外は例年並みか多い入荷量となった。川えびは、2018年の禁漁期間設置以降から徐々に増加している。12月頃になると冷凍川えびのストックが全くない状況であったが、今シーズンは多くのストックを作ることができ、来シーズンまで販売できる。鮎は2019年のような状態に。数が少なく、魚体が大きい。10月は初めての自粛期間を設けた。釣師は解禁直後から諦めの様子。網をメインに漁を行う漁業者は火振り漁がほとんどできず、厳しいシーズンとなった。ナマズやスッポンの入荷も増えているが、需要が高まっているため順調な売れ行きだった。